

別離の歌

(昭和六年閉寮記念寮歌)

大槻均君 作歌

中村小弥太君 作曲

草木そうもくすらときに悲歌ひかを嘆たんず、永劫えいこうの時の流れながの尽つきざるに、
人の世ひとよの凡すべての何なんぞはかなき。
懐なつかしき友ともよ、
彼の寮かを思りようひ浮おもべて心静こころしずかに「別離べつりの歌うた」を奏かなでん。

一

高遠たかきを誇ほこる自治寮じちりようよ
星永遠ほしとこしへに流ながれては
春秋しゅんじゅうここに二十六にじゅうろく
逝ゆきて歸かえらぬ春風はるかぜを
恨うらむ今宵こよいの若草くさの上うえ
これ先人せんじんが夢ゆめの跡あとかな

二

移うつろふ世習ならひ泣なくは誰たそ
原始げんしの森もりに咲えく枝えだを
手折たりて結むすぶ友垣ともがきが
燃もゆる生命いのちのかがり火びに
光ひかる瞳ひとみは幸福アストラ星はか
強つよく正ただしく友ともよ生いきなむ

三

明日あすの宿居やどりは知しらねども
吾われに友ともあり、吾強われつよし
降ふる苦難くるしみをともふにせん
誓ちかふ心の酒杯さかづきに
尽つきぬ名残なごりの涙なみだする
今宵こよいかき限かきりのこの宴うたげかな